



## 第7回 みらいの県土研究会を開催しました

これまでの  
みらいの県土研究会  
資料はこちら→



令和8年3月12日（木）に第7回みらいの県土研究会を開催しました。  
産官学あわせて86名（内 Zoom参加41名）の方にご参加いただき、これまでの  
取組みと来年度の取組方針について情報共有し、意見交換を行いました。

高野アドバイザーより「建設発生土対策を地域の事業者を含めてきめ細かく検討している事例は全国にない素晴らしい取組である」、また土屋建設業協会環境・災害対策委員長からは「この研究会を継続してほしい」との意見がありました。



### 1

建設発生土の処理に関する基本方針に基づく取組の進捗状況

**発生抑制**  
(土を出さない)  
建設発生土の発生を抑制する

職員向け説明会にて、工法採用の視点や設計段階での考え方について説明

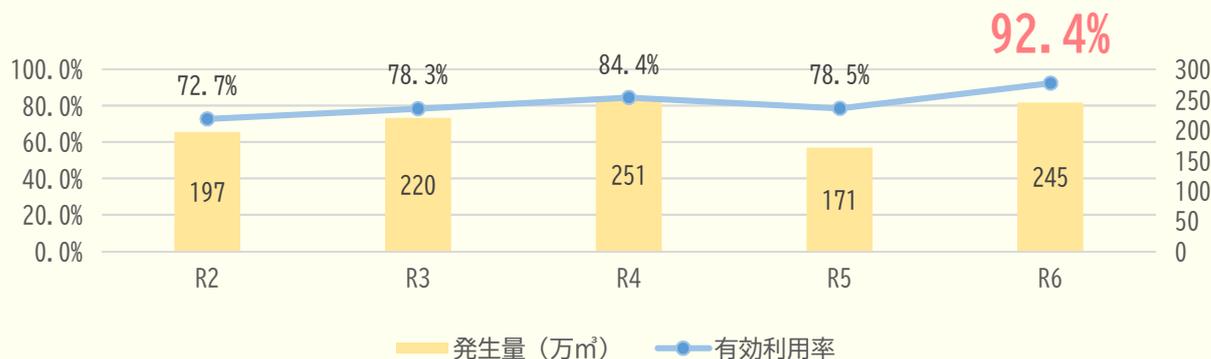
**利活用促進**  
(土を無駄にしない)  
建設発生土の利用を促進する

静岡県建設工事執行規則の施行により契約事項として搬出先を明示  
建設発生土ストックヤード整備計画を策定  
土質改良土の利用拡大に向け「静岡県盛土材料取扱基準」の見直しを実施

**適正処分**  
(土を不適切に処分しない)  
建設発生土を適正に処分する

建設発生土処理施設一覧表をホームページで公開

●簡易型建設副産物実態調査（簡易センサス）における発生土有効利用率推移（静岡県発注工事）  
令和6年度は有効利用率92.4%を達成！



- 方針1 事業間で利用調整を行う場を設置し、さらなる有効利用を促進する  
庁内連絡会の開催  
プリザンターを利用した庁内流用調整アプリの作成
- 方針2 地域部会は開催単位を検討した上で開催し、関係者間での連携を強化する  
東部 土質改良土の品質確保  
中部 養浜材への利用  
西部 有事の際に備えてできること
- 方針3 発生土処理施設の性質や受入条件を明確にし、積算の適正化を図る  
建設副産物処理施設の価格実態調査の対象となる施設の公募を開始  
一覧表の記載内容の細分化
- 方針4 土質区分を簡易に判別できる方法を研究していく  
短期から長期の段階ごとに分けて、一定水準の成果を得られる可能性のある案を検討  
地域の状況・県等のフェーズ等を考慮し研究を継続する予定

### 【中部】 海岸を守る「養浜材」としての利用



- 主な検討事項  
養浜材の不足
- 解決に向けた方向性  
砂利採取計画との連携、供給体制の構築

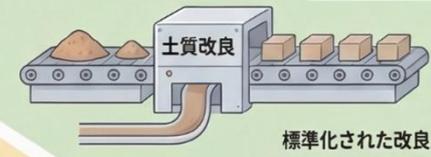
清水・富士海岸の侵食対策として  
河川掘削土砂等を養浜材に有効活用する

### 【東部】 改良土の「品質確保」と標準化



- 主な検討事項  
改良土の品質ばらつき
- 解決に向けた方向性  
室内配合試験や日常管理の見える化

第三者認証制度を参考に土質改良土の  
品質管理基準や積算の適正化を推進する



標準化された改良土

### 【西部】 有事に備えた「迅速な資材確保」



ストックヤード

- 主な検討事項  
災害時の資材調達難化
- 解決に向けた方向性  
ストックヤードの整備と災害協定の見直し

敷地川の災害復旧事例を元に、  
緊急時の資材調達と官民連携体制を強化する

